

岩田 亮一 氏の学位審査結果の要旨

主査：上野 博夫

副査：日下 博文、権 雅憲

神経内分泌腫瘍は全身に分布する神経内分泌細胞から発生する稀な悪性腫瘍であるが、その性質についてはほとんど解析が進んでおらず、また有効な治療法も開発されていない。本研究において申請者は原発巣不明の脳転移性神経内分泌癌と診断された腫瘍の切除標本から2種類の異なる培養条件において、スフェロイド様の細胞株 (ANI-27S) (EGF, bFGF を含む無血清培地内における浮遊培養系) と繊維芽細胞様細胞株 (ANI-27AD) (DMEM+10% FCS による接着培養系) を樹立した。ANI-27S には CD133, Nestin, Sox-2 の発現が確認され、一方の ANI-27AD にはこれらのマーカーは発現していなかった。ANI-27S は少なくとも半年以上上記条件下にて培養を続ける事ができ、ヌードマウス移植にて造腫瘍能も確認できた。また、上記接着培養系の条件下にて形態的に分化傾向を示し、また上記 CD133, Nestin, Sox-2 の発現が低下した。また、*in vitro* における抗がん剤デモゾロミド投与による増殖抑制効果検討に用いることができた。これまで原発不明神経内分泌癌の脳転移巣から樹立された細胞株は報告がなく、本研究によってこの領域が進展することが期待された。以上より充分学位に値すると考えられた。